

令和 6年度 園評価書

園番号 11		園名	西奈こども園
--------	--	----	--------

I 経営の重点に関わること 評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
健康で明るい子	夢中になって とことん遊ぶ	好奇心や探求心を持ち、遊びを楽しんでいる	好きな遊びや興味をもったことに対して、十分に楽しむ中で「〇〇したい」「〇〇がほしい」と言って、主体的に遊ぶ姿が多く見られるようになってきている。	A	A	・子ども達の「やりたい」をすぐに保育教諭がつなげ、環境を整えている。また、保育者が前に出すぎず、後ろからそっとサポートして関わってくれているのがよくわかった ・評価指標の「友達の良いさを認め合いながら生活する」は難しいのではないか。年長のこの時期でも達成できるかどうかである。「自分の良さや友達の良いさに気づく」や「見つける」で十分ではないか	・もっと自信を持つてのびのびと遊べるように、その子自身を認める機会を増やしていく ・子どもの声をしっかり受け止め、子どもがより安心して過ごせるようにしていく ・子どもの興味関心を探り、発達に合った環境を用意していく ・園庭環境について、週案検討時に職員間で話し合い、子どもの「やってみたい」により実現できる環境を整えていく
		自分の良さに気づき、友達の良いさを認め合いながら生活する	友達と同じ場で一緒に遊ぶ中で、自分の思いを伝えたり、相手を思いやる言葉が出てきている。自分の良さに気づきにくいが、保育教諭が共感的に接したり、肯定的な言葉を発することで、自分を表現できるようになってきている。	B	B		
		「挑戦しよう」「やってみよう」と様々なものに興味をもち、取り組もうとしている	安心できる場所があるようで、色々な経験を通し失敗しても諦めず、繰り返し取り組み「できた!」という成功体験を重ねていったことで、「やってみよう」につながってきている。	A	A		

II 全体的な計画に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	子どもの発達や興味関心を捉え、豊かな体験活動が展開できるように考えている	発達段階をしっかりと捉え、その時の興味関心に合わせた活動を行っている。縦のつながりも意識しながら、お互いの部屋を行き来しながら自然な異年齢の関わりがもてるようにしている。	A	A	・園庭に様々な環境が整っている。保育教諭が意図を持って、支えているのがわかる ・小学校1年の担任からはさがみが使えないなどの手先の不器用さや、不自然な走り方からバランスのとり方や体幹の弱さを感じる子が多くなっていると聞く。子どもの意欲を大切にしながらも、子ども達に力が身に付く活動になることは大切である	園全体で子どもの姿を共有していくためには、キラキラタイムが有効なため、次年度も引き継ぎ行っていく。 集団生活の中で、一人一人のペースを大切にするためには、職員間の連携が大切である。引き続き協力し合って、教育保育を行っていく。
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	職員の共通した援助のもと、子どもが安心して過ごせる環境が整っている	1号児・2号児の経験の差がないようにし、また保育時間や家庭環境に配慮しながら安心して過ごせるようにしている。職員間で連携をとり、長時間の教育保育をつなげている。	A	A		月案や週案検討時に、次の実践に向けて考えていることを発信し、職員間でアイデアを出し合える場にしていく事で、次の環境考えていく。
	(3)環境を通して行う教育及び保育	保育者が共同作業者となつてとことん遊ぶ中で、子どもの「楽しい」の思いに気づき、次につながる環境を作っている	子どもと一緒に遊びこむ中で、子どもの言葉や仕草、つぶやきなどしっかりと捉えることが出来てきている。次につながる環境は、クラス内で検討して実践しているが、他のクラスとの共有が難しい。	B	B	・次につながる環境を他のクラスとの共有は難しいのではないか。各学年でのおさえをしっかりとしていくことが大切である	命を守るためにはどうしたらよいか子どもと共に考え、いざという時にすぐ動けるように訓練を重ねていく。訓練の実施により課題を明確にし、職員全体で周知する。
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	年間計画に沿った訓練が行われ、その中で「自分の命は自分で守る」という気持ちを持つ取り組みがなされている	年間計画に沿って実施し、指示型から思考型の訓練にしていっただことで、子どもも保育教諭も自ら行動できるようになってきている。毎月の会議時に反省を行うことで、改善点をすぐに出し見直すことができた。	A	A	・食育では栽培し、それを皆で食することが大事である。「みんなと一緒に」と「先生にほめてもらえる」ことが、苦手な物を食べてみる意欲になったりする。育てて、その場で食する経験が大切であると思う	色々な経験を通して、子どもの食べることに對しての意欲や楽しさを感じられるようにしていく。毎月の食育の取り組みでは、話をして終わるだけでなく、実践的なことも取り入れていく。
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	基本的生活習慣が身につき、食に関する興味や関心が育っている	生活の中で丁寧に見守ることで、生活習慣が身についてきている。栽培やクッキングを通して、食に触れているが毎日の食事で、食べ物の香りや温かさを感じる経験が少ないため、食に対する興味関心が薄い面もある。	B	B	・サポートプランを必要としている子が年々増えている。西奈こども園とは、入学前から情報交換をしているのでスムーズに受け入れられている。この体制を、他園でもしていけるようにしていきたいと思っている	専門の先生のカンファレンスを来年度も行い、職員が学ぶ機会を作り、悩みや疑問を解決できるようにしていく。また、全職員に共通理解できるように、伝達を確実にやっていく。
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の発達や特性に合わせた支援体制ができている	サポートプラン検討を行い、子どもの発達を捉える視点やサポート方法について意見交換し、それを職員間で共有し、共通した支援を行っている。	A	A	・公開保育などの園内研修や、毎日のキラキラタイムを十分に行っているので、評価はAでいいのではないか	クラス間だけでなく、分掌がリーダーとなり全体を見通し責任を持って進めていく事で、連携を図っていく。また、変更事項などはその時に必ず伝達していく。
5 組織運営	(1)組織体制の充実	職員間で情報共有・連携を取り、協力し合いながら主体的に行動できる職員集団になっている	職員間で声をかけあい、行事や園庭環境など協力し合う体制は出来た。主体的に行動できるという点に関しては、やや物足りなさを感じる点もある。また、急な予定変更など全員に連絡が伝達されないこともあった。	B	B	・コドモンでのドキュメンテーションなどで、毎日の情報があることは保護者にとって良いのではないか。小学校1年生の保護者から、園と保護者のつながりと、小学校との差を比べられることがあり、同じ方法はとれないがつながり方は学びたい	職員の保育に対しての悩みや公開保育であがった課題をもとに、園内研修を行い、より教育保育を深めていく。
6 研 修	(1)研修体制の充実	年間計画に基づき研修を重ね、子どもの育ちにつながる適切な環境や支援について研修を深めている	職員一人一人が子どもの発達をおさえていくことで、子ども理解が深まった。公開保育を行うことで、人的物的環境の見直しを行い、園全体の課題として捉え次回につなげていった。	B	A		
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもの発達や興味関心に寄り添いながら「やってみよう」「やってみたい」が実現できる環境を整えている	毎日のキラキラタイムで子どもの「楽しい」や「キラキラしている姿」を職員間で語り合い、職員のそれぞれの良さを知ったり子どもの姿を様々な面から捉えることができた。語り合うだけでなく日誌にもしっかり記載していったことで、子どもの姿から次の環境構成を見直していった。	B	A	・コドモンの配信が始まり、写真など家族で共有ができるようになりよい。仕事の合間に見て、ほっとできる。	一日の振り返りをしっかり行っていく事で、次につながる環境を考えていく。また、クラス内だけでなく園全体で共有することを大切にしていく。
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	遊びや生活の様子の情報発信を行い、子どもの成長を保護者と共有し、子育てを支えている	保護者と送迎時やクラス便りなど通して、子どもの成長や様子を共有している。1月からボードではなく、タブレットでの写真を取り入れたドキュメンテーション作成をし毎日各クラス配信している。	A	A		ドキュメンテーションに、子ども達が今楽しんでいることだけでなく、育とうとしている所やついてきている力なども記載していく。
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	様々な活動を通して交流を図り、互いの教育を理解し、幼小接続について考えている	年長児が積極的に出かけうことで、就学への見通しを持ち不安を小さくすることに繋がっている。また職員が公開授業へ行くことで、学校教育を知る機会となっている。	A	A		引き続き園から小学校に出かけて行き、子ども同士や職員同士での交流を持つことで、顔が見える関係性を築いていく。また、小学校から園に来てもらう取り組みを取り入れていく。
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域のいろいろな場所や人、もの、ことにかかわり地域に親しみをもてるようにしている	年長児を中心に地域の施設訪問や触れ合いなどの活動を、地域と連携し機会を作って参加している。また他の学年も、地域の公園や学校へ散歩に出かけ地域を知る機会を持ち、自然物との関わりももてるようにした。	A	A		積極的に地域に出かけ、人・物に関わり親しみが持てるようにしていく。また園に親しみを持ってもらえるように、おしゃべりサロンで園庭開放をしたり、近隣園との交流を図ったり招く機会を増やしていく。